

シュティーターによる肖像画

大沼幸雄

数多くあるベートーヴェンの肖像画のうちで最もポピュラーなのはシュティーターが描いたこの作品でしょう。（第一図参照）私も、小学校（当時は国民学校と呼称）時代に音楽室に、この赤いスカーフをしたお洒落なベートーヴェンが、モーツァルトなど並んで、貼ってあったことを思い出します。ヨゼフ・シュティーター（1781-1858）は、19世紀初頭のもっともポピュラーな肖像画家で、ゲーテ、フンボルトなど著名人の肖像画を多く手掛けています。

このベートーヴェンの肖像画は、1820年に描かれて以来、何度も複製されて世に出ています。その結果、画家の目に映った天才音楽家の理想像を描いたこの絵は、19世紀から20世紀にかけてベートーヴェンのイメージを世界中に定着させる上で大きな役割を果たしています。



第一図：シュティーター画によるベートーヴェン肖像（1820）

これは、1810年からのベートーヴェンの親しい友人であるブレンターノ夫妻（フランツとアントニエ：シュティラーは、1808年、この夫妻の肖像画も描いている）の依頼で描かれたものです。ベートーヴェンの会話帳（難聴になってから筆談に用いたノート）に、この絵の由来が詳しく書かれています。ベートーヴェンは、画家のために4回も椅子に座りモデルになっていたと言われており、じっとしているのが大嫌いなベートーヴェンにしては珍しく協力的な姿勢を見せています。

この肖像画は、伝統的な手法とは異なり二つの面でユニークな作品とされています。

第一に、作曲中のベートーヴェンを描いたことです。このベートーヴェンは、右手にペンを握り「荘厳ミサ曲」ニ長調（op.123）の第三曲「クレド」を作曲している姿です。手にしている楽譜の表紙には、「荘厳ミサ曲・ニ長調」と書かれていますし、楽譜自体から「クレド」が読みとれます。

第二に、シュティラーは、背景に森を絵が描いたことです。よく観察すると草花、樹木、森が描かれているのが分かります。その結果、この絵は、ベートーヴェンと自然を組み合わせてロマンティズムを表徴した最初の作品となりました。ご承知の通りベートーヴェンは強烈な自然愛好家でした。田園交響曲（op.68）の自然描写がシュティラーにヒントを与えたのかもしれませんが。

会話帳には「作曲中の姿勢をお願いします。その姿を描きたいので」とか、「手を振って合図をしたら、そのままの位置でいてください」とか書かれていたと思われます。1820年4月、「ミサ曲は、何調になるのでしょうか」とシュティラー尋ねたところ、ベートーヴェンは「ニ長調。ミサソレムニスにニ長調です」答えており、最後に画家が「ここで15分ほど飾ってからすぐにブレンターノに送り届けるつもりです。長いこと御辛抱を頂いて、重ね重ねも御礼を申し上げます」と書き込んでいます。この絵には「1819」と年代が入っていますが、これは着手時期で完成は1820です。

この肖像画をベースにデザインされたと思われる切手も多数発行されています。主要国の一覧を第一表に記します。ミヒェルのウェブ・カタログを用いたのでドイツ語の国名表記順です。このカタログに図案の記載がない国々は除外してあります。（例：モルジブ、ラスアルカイマ、ルアンダ、コモロ諸島、グレナダ、シャルジャ、イエメン等）デザインは合成も多く、果して何が原画か判然としませんが、独断と偏見で選んでいますので、識者の御叱正を頂ければ幸いです。

	国名	ミヒエル番号	発行日
1)	アルバニア	1458	1970.12.16.
2)	ベルギー	2440	1990.10.6.
3)	西独	315	1959.9.8.
4)	ブルガリア	2500	1970.10.15.
5)	中国	4176	2010.7.25.
6)	キプロス	1203	2011.1.28.
7)	モンゴル	1430	1981.11.6.
8)	ニジェール	1440	1974.9.19.
9)	パラグアイ	2892(Block293)	1977.2.28.
10)	ルーマニア	2895	1970.11.2.
11)	同上	3716	1980.5.6.
12)	東独	300	1952.3.26.
13)	同上	1631 (Block33)	1970.1.26.
14)	インド	513	1970.12.16.
15)	日本	3917	2005.12.1.
16)	カメルーン	630	1970.11.23
17)	コロンビア	1330	1970.8.17.
18)	エルサルバドル	1037	1971.2.22.
19)	セネガル	435	1970.9.26.
20)	ソ連	3824	1970.12.16.
21)	トーゴ	570	1967.4.15.
22)	ハンガリー	1684	1960.6.25.
23)	同上	2598A/B	1970.6.27

第一表：シュティラーを原画にしたと思われる主要国の切手リスト

この肖像画は、ボンのベートーヴェンハウスで所蔵となっていますが、それに至る経緯については、会報 83 号（2006 年 1 月号の拙稿「この肖像画は、私の祖父の所有でした」を参照ください。

参考文献：1) F A Pジャーナル（1981 年 6 月号 Vol 27/No.2）

2) ベートーヴェン・ハウス・ボンのアーカイブより

3) セイヤー「ベートーヴェンの生涯」音楽の友社（昭和 49 年） 以上